



ル一
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2026年 1月 4日

No. 140

事実、ご自身、試練を受けて苦しまれた
からこそ、試練を受けている人たらを
助けることがおできになるのです。

ヘブライ人への手紙 2章18節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12 章 15 節



シリーズ説教

「受容する神」

佐藤和宏牧師

マタイによる福音書 2章 13-23節

降誕節に入りました。教会の暦は、1月6日の顕現日までをクリスマスの期間としているのです。それは顕現日に、いわゆる博士たちが宝物を携えて、幼子にひれ伏すために旅してくるのですが、それはすべての人々に幼子が顕されたことを意味しているからです。

つまりクリスマスとは、幼子が生まれましたということでは終わらないということです。クリスマスにお生まれになった幼子は、どのように生まれ、どのようにしてすべての民の救い主となられたか。これが明らかにされることが大切なことなのです。そのことを聞く降誕節になりますが、幼子とその家族はエジプトへ逃れ、またガリラヤのナザレに行って住んだということです。時の権力者ヘロデの拒絶反応に対応するかたちでの逃避行にみえます。

ところが、聖書は「主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった」と繰り返して述べ、すべてのことが、主なる神のご計画にほかならないとしているのです。

つまりクリスマスにおける神の救いの計画は、圧倒的な力によって人間を押さえつけ、実現するものなのではないということです。神の救いは、敵対者たちの拒絶反応のうちにさえあるということなのです。こうしては神は、すべての人の救いを幼子の十字架によって実現するという計画を明らかにし、具体的に始められたのです。

説教題を「受容する神」としました。神の介入に対する、人々の「拒絶反応」の反対語に「受容」を見つけたからです。これは「受け入れること」と、そこに条件や判断基準がないということです。神は受容するのであって、私たち人間に条件を付けるのではありません。

せん。たとえ神ご自身に対して「拒絶反応」を示す敵対者たちに、同じく「拒絶反応」を示すのではなく、彼らの「拒絶反応」をさえ、そのまま受け入れるクリスマスという神の介入ですから、「受容」がふさわしいのだと思われます。

第一の朗読でお読みした、イザヤ63章9節に次のようにありました。「聖書略」

これが神の受容ということではないでしょうか。

福音の日課が示す記事は、幼子の逃避行にみえるでしょう。敵の力を恐れ、エジプトへ逃げ、敵が死ぬと戻っているからです。なかでも二歳以下の男の子の虐殺を前に、なんとも無力である姿を明らかにしています。この場面を思う時、多くの人がクリスマスを台無しにするかのような悲惨な光景を思い浮かべられ、心を痛めるでしょう。しかしそうではないのです。それはヘロデー一人が悪いと片づけることができる問題ではないということです。それは私たちすべての心の奥底にある「拒絶反応」の要因である罪を意味しているのではないかと思うからです。

この痛ましい出来事は、私たち人間の神に対する拒絶反応である「罪」なのです。そして驚くべきことに、主はこのような拒絶反応をも、そのまま受容しているのです。そしてここにクリスマスの意味が隠されているにちがいありません。どうということかと申し上げますと、その時にこそ、幼子は「苦難を常にご自分の苦難とし、御使によって彼らを救う」神となられているということです。無力にみえるその時にこそ、「愛と憐れみをもって彼らを贖い、彼らを負い、担ってくださって」いるということなのです。（降誕節第2）

転入して 小〇〇子／半日修養会によせて 山〇〇子 クリスマスコンサート 江〇〇子

●日本福音ルーテル藤が丘教会に転入して 救い主と共に 小〇〇子

2025年12月21日、クリスマス礼拝にて皆様の群れに加えて頂き、新しい一步を踏み出す恵みを与った小〇です。

神様のみ言葉である「聖書」の理解も乏しく～。時には「道」をはずれ、「見失った羊」になるかもしれません。



どんなに苦しい（悲惨な）日にも私達に“大切な御子”を遣わされた【神様の愛】を心から受け止めて、諦めずに【救い主】を一番の友として進んでいきたいです。

（自分の中に潜む重たすぎる【罪】から目を背けず明かす勇気を忘れないで）

るということは、相手を思いやる大事なことであることを心に留めたい。

・神の言葉をしっかり心にもって、それを伝える奉仕として、子どもたちにも、神のこと、神の愛を優しい言葉で伝えていきたい。

・神の体を分かち同志であれば、隣人の体を損ねる、貶すことはできないはずだし、かばうべきである。また、他の人がいなければ、自らは存在しないということを覚えていた

い。

・すべてを神さまにまかせている思いはあるが、教会の交わりの中では、自らの思い、考えをさらけ出して話してしまうことがあるが、ひとつずつ考えて、“つつしみ”をもって（相手に仕えることを考えて）話し、接することが大事。

上記以外にもいろいろ意見がだされ、私自身も“利他への実践”をあらためて考える、よい修養会となりました。江藤先生、グループの皆さま、ありがとうございました。

●半日修養会によせて。 山〇〇子

江藤直純先生のお説教「解き放たれて利他へ」では、キリスト教の原点を学び直した思いでした。引き続き、修養会では先生が「その実践」というテーマでお話くださり、その後のグループ分けで、〇田さん、〇井さん、永〇さんと一緒にいただきました。それぞれが、自らの反省も踏まえて、利他へどう実践していくかを考え、下記の意見が出されました。

・人との会話の中で、時として自分の話を優先させてしまうことがあるが、人の話を傾聴す

●クリスマスコンサート 江〇〇子

小春日和の12月6日、トーンチャイムの演奏会が開かれました。

市ヶ谷教会を拠点として練習なさっているティンカーベルクワイア7名の方々と当日のスペシャルゲストとしてパストラルハープ奏者大〇〇絵さんがいらっしゃいました。

トーンチャイムを初めて知った方々も多く、トーンチャイムと言う楽器の説明からコンサートが始まりました。演奏曲も皆様が知っている曲を選んで下さり、飽きることなく耳を傾けていました。第2部では大〇さんのパストラルハープと小〇〇〇子さんのフルートのコラで心が穏やかになっていくのがわかるよう

な温かい演奏でした。

休憩がありましたが、トーンチャイムについての説明をしたり、実際に触れてみたりの時間帯になりました。第3部はクリスマスの曲の演奏と讃美歌37番を皆様と歌いました。60名の参加者の演奏会でしたが、冬の寒さ、師走の忙しさをしばし忘れたひと時を過ごし、。演奏された方々からは皆様が楽しんでいる～事を肌で感じられた～と言う感想を頂きました。

又、当日は日本福音ルーテル教会の緊急支援の呼びかけをして、ガザにおける人道支援の募金をさせて頂き、皆様のご協力に感謝申し上げます。



●女性会だより

12月7日 女性会総会 参加者9名
司会、祈り 山〇姉 讃美歌 39番

1 聖書の学び

ルカによる福音書2章8～20節
「いと高きところには栄光、
神にあれ、地には平和、
御心に適う人にあれ。」

今月、受洗記念日を迎えた方々

1日 〇瀬啓〇兄、〇田〇兄、倉
〇〇姉、〇井〇司兄
8日 田〇(〇) 圭兄
11日 〇田〇貴子姉、〇田〇志兄
12日 名〇〇実兄
17日 〇野〇苑姉 吉〇〇子姉



おめでとう
ございます。

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう
「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
ローマの信徒への手紙12章15節
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



2 女性会総会

①クリスマス献金送付先の決定報告



②2026年度新役員

会長→山〇姉。

副会長、記録

→江〇姉。

会計→小〇姉

③星くずの会に

献品の品々を
送った。

次回は1月18日

